



すみだだより

令和7年4月7日 校長 深谷 純一

入学、進級、おめでとうございます。

今年 は 始業式、入学式まで桜の花も咲いており、本格的な春の訪れとともに令和7年度の新学期を迎えました。久しぶりの友達との再会、そして新しい学級、新しい担任との出会いを経て、それぞれの目標に向かって活動を始めます。どんな学びがあるか、どんな成長があるか、楽しみです。

私は、校長の深谷純一（ふかたにじゅんいち）と申します。朝日前校長の後任として、令和7年4月1日付けで本校に着任いたしました。令和元年度から4年間は都立高島特別支援学校の校長を務め、その後の2年間は東京都教育庁で東京都特別支援教育推進計画（第二期）第三次実施計画の策定などに取り組んでおりました。これまで就学相談や入学相談、就労支援やキャリア教育、医療的ケアなど様々な施策に携わらせていただきました。そうした経験を児童・生徒、保護者や地域の皆さんに還元してまいります。また、先生方の専門性の向上も図ってまいります。

明日の入学式には、小学部34名、中学部24名、高等部45名の新入生を迎え入れ、総計374名が学ぶ学校として教育活動を始めます。昨年度当初より18名・2学級が増えました。本校のホームページで着任の挨拶でも触れましたが、令和9年度に墨田地区第二特別支援学校（仮称）が開校し、小・中学部は新設校に移転、本校は高等部単独校として生まれ変わる予定でしたが、工事の業者が決まらず、現時点では令和11年度開校の予定となっております。開校の時期が延びてしまったことは残念ですが、令和10年度には小・中学部と高等部がともに50周年を迎えることとなります。その間、教育内容もこれまで以上に充実させていくよう取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

「この子らを世の光に」

私は平成8年度に当時の東京都立青鳥養護学校で働き始めましたが、自ら障害のある子どもたちへの教育について学ぶ中で、出会った言葉について紹介します。「この子らを世の光に」、糸賀一雄さんの言葉です。詳しくはインターネット等ですぐに調べられると思いますが、糸賀一雄さんは、昭和21年、戦後の混乱の中で、戦災孤児を収容するとともに、知的障害児の教育を行う「近江学園」を創設しました。その後、次々に関連の施設を設立、昭和38年には重症心身障害児施設「びわこ学園」を創設しました。この施設は、東京都にある島田療育園と並んで、重症心身障害児施設の先駆けとなっています。

「この子らに世の光を」当てるのではなく、「この子らを世の光に」としていくことが求められているとの考えです。東京都特別支援教育推進計画の基本理念でもある、「共生社会の実現に向け、障害のある幼児・児童・生徒の自立を目指し、一人一人の能力を最大限に伸ばして、社会に参加・貢献できる人間を育成」にも通じている、普遍的な言葉だと感じています。こうした先達の想いも大切にしながら、学校が二つに分かれても「墨田の教育は一貫している」と言われるよう、改めて校内研究も頑張っていきます。子供たちが成長とともに「世の光」となる共生社会創りに向かって、教職員一同、努めてまいりますので、今年度もどうぞ、よろしくお願いいたします。

全校保護者会

4月14日(月)午前9時30分

新転任の教職員を紹介し、令和7年度の学校経営計画や年間行事予定等をお知らせします。終了後、小学部・中学部・高等部の学部保護者会、また学年保護者会もありますので、ぜひ御出席ください。